

奥村泰宏・常盤とよ子 写真展 PHOTO EXHIBITION

戦後横浜に生きる

2018 10/6(土) - 12/24(月)

横浜都市発展記念館
Museum of Yokohama Urban History

〈開館時間〉午前9時30分～午後5時(券売は午後4時30分まで)
※会期中の11月3日(土)、12月22日(土)は午後7時まで開館
〈休館日〉毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌日)
〈観覧料〉一般300円 / 小・中学生150円
この料金が当館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。
毎週土曜日、小・中学生と高校生は無料です。

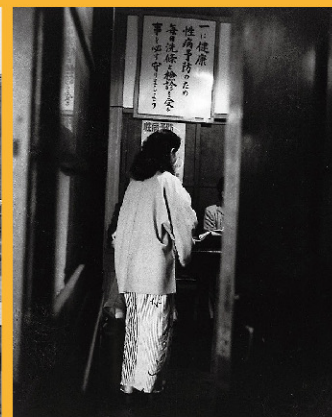
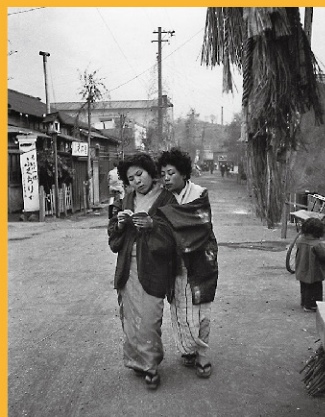
11月3日(土)文化の日は観覧無料

TOKIWA TOYOKO

戦後横浜に生きる

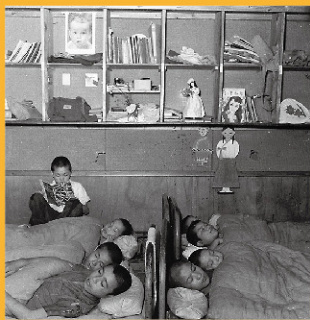
奥村泰宏・常盤とよ子写真展

1945(昭和20)年8月の敗戦後、横浜は都心部を中心に各所を占領軍に接収され、数万の兵士が駐留する基地の街となりました。この時期の横浜市内を数多く撮影したのが、奥村泰宏氏(1914-1995)と常盤とよ子氏(1928-)夫妻です。奥村・常盤両氏の撮影した写真は、戦後の横浜に生きる人々の諸相を克明に記録したものであり、芸術的価値のみならず、資料的価値が極めて高いものであるといえます。本年、常盤氏の姪にあたる栗林阿裕子氏を通じ、奥村・常盤両氏が撮影した膨大な数に及ぶ紙焼写真・ネガやカメラなどの資料が当館に寄贈されました。本企画展ではこれを記念し、奥村・常盤両氏の写真とともに関連する歴史資料も展示し、戦後横浜の様々なテーマについて紹介をします。



- | | | |
|---|---|--|
| 4 | 6 | 4 奥村氏が設立に関わったボーイズホームの子どもたち 1950(昭和25)年 |
| 5 | | 5 聖母愛児園の子どもたち 1952(昭和27)年 |
| | | 6 再会 1952(昭和27)年 以上、奥村泰宏氏撮影 |

- | | | |
|---|---|------------------------------------|
| 1 | | 1 野毛山プールの女子プロレス 1955(昭和30)年 |
| 2 | 3 | 2 流行歌の合唱 1954(昭和29)年 |
| | | 3 真金町診療所受付 1956(昭和31)年 以上、常盤とよ子氏撮影 |



展示構成

●第1章 奥村泰宏氏が写した戦後の横浜

- 1.戦後横浜の接収状況 2.占領軍の横顔 3.戦後横浜市民の記録
4.港に集う人々 5.奥村泰宏氏の軌跡
コラム.奥村商会の歴史

●第2章 常盤とよ子氏が写した戦後の横浜

- 1.働く女性シリーズ 2.赤線地帯 3.お六さんとチャブ屋の歴史
4.常盤とよ子氏の軌跡 5.常盤氏インタビュー映像
コラム.沖繩の微苦笑

●第3章 戦後社会事業へのまなざし

- 1.婦人保護事業の記録 2.奥村泰宏氏と日本厚生団の活動
3.聖母愛児園の子どもたち



アクセス

- 東急東横・みなとみらい線日本大通り駅(3番出口)0分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン関内駅(1番出口)から徒歩約10分
- JR京浜東北・根岸線関内駅(南口)から徒歩約10分
- 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分

横浜都市発展記念館 [横浜都市発展記念館](#)

〒231-0021 横浜市中区日本大通12 Tel. 045-663-2424

関連イベント

◎展示解説

展示担当が見どころを解説します。
日時:11月3日(土)、18日(日)、12月2日(日)、16日(日)、22日(土)、24日(月)
14時～、ただし11月3日(土)と12月22日(土)は17時～(各回45分程度)
参加費:企画展観覧料のみ

◎ワークショップ「昔の遊びを体験しよう!」

場所:当館1階 日時:毎週末および祝日の9時30分～16時 参加費無料、申込み不要。

関連展示「聖母愛児園分園『ファチマの聖母少年の町』の記録」

戦後、占領軍兵士と日本人女性との間に生まれた子どもたちのうち、孤児となった子どもたちを多く保護した横浜の聖母愛児園の分園「ファチマの聖母少年の町」(大和市)の記録写真が本年当館に寄贈されたことを記念し、同園の歴史について解説します。
会期:10月6日(土)～12月24日(月) 会場:当館1Fギャラリー 入場無料

チラシ表面資料

- [上]タクシーに乗るGI 1950(昭和25)年 奥村泰宏氏撮影
[下]お六さんの部屋 1968(昭和43)年頃 常盤とよ子氏撮影